

長門市立油谷小学校の児童がシイタケの種駒打ち作業を体験

令和4年3月1日（火）、長門市立油谷小学校において、4年生児童11名がシイタケの種駒打ち作業を体験しました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「油谷林業研究会」（会長：井上清美）が行ったものです。

当日は、林研会員をはじめ児童の自己紹介から始まりました。

会長によるあいさつと森林の話の後、久永副会長からシイタケ栽培について講義があり、原木伐採からシイタケ発生までの話がありました。

続いて体育館に移動し、会員の指導のもと、穴あけ位置に印をつけた原木に、各自電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で種駒を打ち込みました。

児童たちは、ドリルの穴あけやシイタケの駒打ちは初体験でしたが、楽しく作業をしていました。

2年前に駒打ちを実施した原木からシイタケの発生があり、収穫体験もしたそうです。

油谷林業研究会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



講義について

シイタケ栽培について



ドリルでの穴開け体験